

## P-5B-275

### 一部2交代制勤務導入の取り組みと今後の課題

盛岡赤十字病院 看護部

○高橋 節子、目時 のり

当院では平成25年度から WLB 推進活動の周知、部署の状況や看護職個人に合った夜勤交代制勤務の施行、時間外勤務の減少、メンタルヘルスに関する各部署の取り組みを行い、WLBの推進を図っている。自部署では WLB 推進の一つとして平成26年10月からモデル病棟として一部2交代制勤務を導入したのでその経過を報告する。当病棟は病床稼働率減少が見込まれたため、平成26年4月から深夜準夜勤務者が3人から2人夜勤になった。入院患者の約40%は午後から準夜にかけての予定外入院患者で、内視鏡検査・治療の患者移送も準夜帯にかけて多く、日勤・運番勤務者の時間外勤務になっている。また、高齢患者が多く、ADLの低下している患者で日常生活援助が必要、転倒・転落リスクが高い患者のケアが多かったため、準夜勤務を業務量で随時増やし、6月から準夜3人体制にした。病棟における WLB の具体的な取り組みとして、4月には当院で取り組んでいる WLB についての紹介と日看協の夜勤交代制勤務に関するガイドラインと病棟での業務調整の現状を病棟会議で報告、5月には2交代制勤務に関するアンケート調査を実施した。(新人以外の19名に配布、17名回収、アンケート内容は夜勤交代制勤務11項目、現在の三交代制勤務の夜勤について、今後の夜勤スタイルについて行った。)6月には、7月の勤務希望を取り入れた一部2交代制の勤務表を作成し、勤務配置やサイクルのイメージ化を図り意見を求めた。7月の病棟会議では今までの経過をスタッフに報告し一部2交代制勤務の導入をしてもよいとの最終確認と合意を得た。一部2交代制勤務導入後は業務について病棟内で意見交換を行っており、夜勤者の休憩時間の確保、勤務交代時の引き継ぎ、2交代・3交代勤務者の連携などが課題として挙げられている。

## P-6B-277

### ストレスチェック改正へ向けた現状と取り組みについて

京都第一赤十字病院 人事課

○二谷 裕子、小森 友貴、中島 雅也

【はじめに】

本年12月から法改正によりストレスチェックの実施が義務付けられ、医療機関もその対象に含まれており、チェック項目としては「職業性ストレス簡易調査票」が望ましいとされている。今年実施した全国赤十字社調査ではストレスチェックを実施している医療施設は26/74 (35%)であった。また、当院では6年前より同調査票を用いてストレスチェックを実施してきた。今回、当院で実施しているストレスチェックの流れや個人結果の返却、集団解析結果など、今後の課題や取り組みについて報告する。

【概要】

過去6年間、ストレスチェックの実施率は毎年約95%前後であった。調査は委託業者に依頼し、健康診断に合わせて毎年11月に実施してきた。問診用紙とその結果はそれぞれ封がされた状態で個人情報を守られる。集団解析結果は、委託業者から産業医を始めとする産業保健スタッフに個人情報特定できない状態で送付される。また、面談希望者のみ産業医あてに情報が渡され、個人面談に繋ぐ流れとなっている。ストレスチェックを通して、病院全体だけでなく職種や部署別にストレス度を把握できるようになり、回数を重ねることによって経年変化も明らかになるため、それらを委員会などで共有することが可能となった。

【考察】

高リスク群に対するの介入は、偽りの問診をさけるため実施してこなかったが、今回の法改正では高リスク群に対するのアプローチが必要とされる。また、今後義務化となるストレスチェックは、メンタル不全者の早期発見において重要な役割を担ってくると予想される。そういった現状のなかで、メンタル対応ができる事業場内産業保健スタッフの体制づくりが重要である。今年度より専属産業医を2人体制にするほか、院内スタッフの取り組みを報告する。

## P-6B-280

### ストレスチェック制度導入に伴う、新規健康診断システムの検討

名古屋第二赤十字病院 職員健康対策室

○横井 圭介、天野 由紀子、大石 彩愛、山岡 直登、大槻 貴子、梅崎 愛子、井嶋 廣子、鈴木 雅之、片岡 笑美子

【目的】労働安全衛生法の一部改正(ストレスチェックの義務化など)に伴い当院では平成25年に職員健康対策室を立ち上げ、平成27年度からの健診システムを変更しました。新しい健診システムの実働は平成27年6月からの予定であり演習登録時点では準備段階です。発表当日は、6月から8月まで(4、5月の誕生日者を7、8月に割り振り健診施行にて、誕生日5ヶ月分)について検討する。

【概要】健診業務管理の本体として日立製作所の職員健康管理システム「従業員健康管理クラウド」を新規導入しました。このシステムと、院内診療システムである富士通の電子カルテ(EGMAIN - GX)とを連動し健診業務を施行します。各種診察・検査は、院内各部門の協力の下行い、問診・健診結果・ストレスチェック・事後措置は職員健康管理システムで行うことによりプライバシーを保護しています。健診は、一括健診から誕生日健診に、検査項目の見直し、院内イントラ・eメールによる健診案内・受診予約・問診授受・結果通知の開始、ストレスチェックの健診時同時施行、産業医による診察・ストレスチェックの結果説明の導入等全般的な変更となりなした(システムの概要・詳細に関しては当院主事山岡の演題参照)。

【検討内容】各種健診と特殊健診及びボランティア健診等を実施し、健診対象者は約1800人/年です。健診受診者の健診当日勤務時間内に健診に費やされる時間、健診の受診率・有所見率及びその内訳、ストレスチェックの受診率、高ストレス者数及び職種別割合、事後措置として、健診有所見者の保健指導・専門科受診率、高ストレス者の面談受診率などにつき検討する。

## P-6B-276

### 全国赤十字施設のメンタルヘルス活動に関する調査報告

京都第一赤十字病院 メンタルヘルスケア委員会

○小森 友貴、二谷 裕子、中島 雅也

【目的】近年、医療従事者のメンタルヘルス不全も珍しいことではなく、医療安全の観点からも患者に影響を与える可能性があり、病院全体での取り組みが必要といえる。当院でも厚生労働省「労働者の心の健康の保持増進のための指針」に基づき、対策を進めているが、過去数年間を遡っても年間を通して休職・退職者がゼロになることはなかった。今回、他の赤十字施設のメンタルヘルス活動の現状を把握し、当院での活動と比較、見直しを行うことを目的とした。

【方法】平成27年2月、全国赤十字施設の医療機関の93施設を対象に自記式の質問票を送付した。メンタルヘルス活動に関する調査項目として、委員会や相談窓口の設置状況や相談対応する職種、院内での研修状況、復職支援、各施設で困っている点などについて調査を行った。

【結果】93施設中74施設(80%)の回答率であった。現在一か月以上休業している職員がいる施設は45施設(61%)。過去1年間においてメンタルヘルス不全で退職した職員がいた施設は55施設(74%)。院内にメンタルヘルス委員会を設置している施設は35施設(47%)。院内、院外の相談窓口を設置している施設はそれぞれ54施設(73%)、16施設(22%)であり、両方設置している施設はうち10施設(13%)であった。ストレス調査を実施している施設は26施設(35%)。各施設で主に困っている点として回答の多かったのは1) 職場復帰のタイミングとその後のケアについて、2) メンタルヘルス不調者増加に伴い、対応できる職員不足などの回答が出た。

【考察】今回の調査にて普段、情報として得にくい各医療機関での取り組み、課題を把握することができた。また自施設と比較することで今後取り組むべき課題を検討する。

## P-6B-278

### 院内ポータル導入に伴う病院情報システムの利便性・効率性の向上

福岡赤十字病院 情報システム課

○寺山 史晃

【目的】当院の病院情報システムは、イントラネット環境との融合や文書閲覧の簡略化など、利便性の向上を図ってきたが、システム毎の起動方法が一元化できていない問題や院内情報の一元化ができていないなど、様々な課題が残っており、更なる利便性・効率性の向上が必要である。

【方法】院内情報に気づく環境構築、シングルサインオンからのシステム起動による業務効率の向上を図るため、院内ポータルシステムの導入を行うこととした。さらに、院内ポータルシステムと連携可能なグループウェア(サイボウズグループ)を導入して分散して保存された院内情報の一元化を図るため運用方法の検討を行うこととした。

【成績】システム毎に起動方法が異なり、都度認証が必要な環境から、院内ポータルシステムのシングルサインオン機能を使用することにより、システムの利便性向上が図れた。

【結論】今回の取り組みでシングルサインオンからのシステム起動やイントラネット環境・電子カルテ・グループウェアの完全融合による病院情報システムとして一元化を行うことで利便性・効率性の向上を図るだけでなく、院内ポータルシステムのパスワード管理機能を利用することでセキュリティ体制の強化が図れた。今後セキュリティ対策を実施しつつ、更なる利便性・効率性の向上について取り組みを行っていきたい。